

# 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

## 来賓挨拶



大臣官房技術参事官 山縣 宣彦

只今ご紹介いただきました国土交通省大臣官房技術参事官の山縣でございます。

たくさんの方の前でお話しするという事でちょっと緊張しておりますけれども、まずは日本海にぎわい・交流海道ネットワーク、これにたくさんの方、盛大にこの講演会が開かれますこと、心からお喜び申し上げたいと思います。

先ほど市内を見てまいりましたけれども、まずは地震からの復興について、市長さんを初め、本当に皆さんの力で徐々ににぎわいが戻っているなど、そんなところを見させていただきまして、もっともつとにぎわうように私どもとしても大いに応援していきたいと思っておる次第でございます。

このにぎわい・交流海道ネットワークというものは、実は平成7年に発足いたしまして、日本海側に位置していらっしゃいます自治体の方、共同していろんな取り組みをしていこうと。にぎわいづくりというんでしょうか、そういったものを一緒にやっていこうということで進められております。

私ども国土交通省も一生懸命応援しているわけですが、このようなシンポジウムとか、あるいは情報をどんどん出していくと。そういった取り組みを通じて日本海側が元気になると、そういうものをやろうということなんですけれども、今日は、特にクルーズをテーマに「豪華客船によるクルーズの魅力」ということで、クルーズを使った日本海側の魅力をどんどん発見していこうじゃないかと、そんな取り組みだというふうに認識しております。

それで、日本海側といいますと、皆さんもちろん御存じだと思いますけれども、北前船の航路があって、非常に文化的にも栄えていたと。私もいろんな日本海側の町、港町を見させていただくことが多いんですけれども、そこで本当に感心しますのは、さすが文化が江戸時代から運ばれていたなど。そういったものがいろんな形で全国に残っている。そういったものを折角ですからネットワーク化して、良いものをどんどん出し合って活性化していこうという、本当にすばらしい取り組みだと思っています。特に、そういった文化遺産、それから自然遺産もございまして。そういったいろんな遺産をうまく活用していこうと、そんな取り組みがされているというのは本当に頭が下がるというか、そんな

思いでございます。

それで、日本海といいますと、私の思いを2つほど申し述べたいんですけども。実は、北九州市という、これも日本海の、日本でいうと一番西の端になりますけれども、そういったところで仕事をしていたときに思ったのは、日本海というのは本当に可能性のあるところだなと。2つの意味で可能性があるとっておりました。

一つは、今アジアというものが非常に注目されております。中国にしろ、これからロシアというものもどんどん大きくなっていくだろうと。そういう市場といたしましうか、そういったところに一番面しているというのがまさに日本海側だと。こういうメリットを使わない手はないなという思いが一つありました。

そういう意味では、今日本海側のいろんな町でロシアあるいは中国、韓国、そういったところとの航路をつくらうとか、クルーズの航路も含めて、そんないろんな取り組みがされているというところは本当に私たちもそうだなと、そんな思いでございます。

もう一つの視点は、実はこのテーマとはちょっと外れるかもしれませんが、現在コンテナというものが物流の中心になっております。そのコンテナを運ぶ船、コンテナ船が世界の港を駆け回っているわけですが、その中で、アジア地域と北米地域を結ぶ主要な航路、これが実は徐々に日本海側にシフトしているという現象がございます。すなわち、サンフランシスコとかロサンゼルスとか、そういった港から大きなコンテナ船が釧路沖を通過して、そして津軽海峡を通過して、そして日本海を横切って、そして対馬海峡を通過して韓国とか中国とかそういった港に行く。そういう物流の動脈が、まさに皆さんのこの地の沖にあるわけです。そういうものを何か使う手はないだろうかと、そんな思いも一方でありました。

このような日本海というものをどうとらえるかというときに、やっぱりこれからのことを考えますと、物流の面でも、あるいは今日のテーマであります観光といった面でも、これからどんどんその辺を使っていく、伸ばしていくと、そういったことが非常に重要じゃないかとおっております。

今日、おそらくクルーズを活用した地域振興といったことについていろんなご意見が出てくるのではないかと思いますけれども、是非、そういったときには市の、あるいは経済界の力に加えて、やっぱり市民の方々がそのクルーズ船を一生懸命誘致し、歓迎するという気持ちが、おそらく素晴らしい旅人の思い出になるし、そしてまた輪島に来てみようと、そんな思いになるんじゃないかとおっておりますので、ぜひ今日はパネラーの人だけでなく皆さんも一緒にクルーズの魅力について考えていただいて、そしてこの輪島の港の振興、あるいは地域の振興に結びつけていただければとおっております。

私ども国土交通省といたしましてもその辺は一生懸命応援させていただきたいとおっておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

簡単ではございますけれども、ご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。